

聖ホセマリアの生涯 －53

1944年6月25日、最初のオプス・デイの司祭が3人誕生します。

2024/07/05

[過去の記事はこちらから](#)

教皇庁から司祭団の許可をえる前から、3人のメンバー（アルバロ、ホセ・マリア・ガルシア・エルナンデス、ホセ・ルイス・ムスキス）が司祭の叙階の準備を始めていました。様々な準備も順調に進み、4月には

叙階式の日時が6月25日に決まりました。式の前日、聖ホセマリアは両親とインドロが眠っている墓地に行き、感謝を捧げ、新司祭たちのために取り次ぎを頼みました。

25日、叙階式はレオポルド大司教の司式、マドリード司教館の聖堂で行われました。聖堂に入りきれないほどの大勢の人がかけつけましたが、創立者は式と同じ時間にオプス・デイの本部のセンターのお御堂でミサを立てていました。

式が終わり、大勢の参列者との挨拶がすむと、大司教様はセンターに移動し、三人の新司祭と数人の招待客とともに昼食をとりました。食後、創立者はスペインの各地から駆けつけた若いメンバーを一人ひとり司教様に紹介し、その後広いサロンで団らんの一時を持ちました。（写真。左から、ガルシア神父、レオポルド

大司教、福者アルバロ、ムスキス神父)

センターはお祝いの電話や訪問客で
ごった返していました。その対応の
ため聖ホセマリアがサロンを離れた
とき、大司教は若いメンバーたちに
パドレ（創立者）を大切にするよう
に頼み、こう言われました。「パド
レはとても疲れているようだ。その
証拠に今日の叙階式に参加する勇気
がなかった。感動で涙を流すのを見
られるのをいやだと思ったのかな。
あるいは、あまりにも楽しい時間を
過ごすのを慎もうという犠牲を捧げ
ようとしたのかも知れない」

司教様も帰られメンバーだけになっ
て、聖ホセマリアは若いメンバーた
ちにこう言いました。「何十年も
たって、みんながおじいさんになり
私はこの世を去ってしまった後、オ
プス・デイに来る若い人たちから
『最初の3人が叙階されたとき、パ

ドレは何を言っていましたか』と尋ねられたら、こう答えて欲しい。一パドレはいつものことを言っていました。「祈り、祈り、祈り。償い、償い、償い。仕事、仕事、仕事」と」

新司祭たちには山のような仕事 awaited していました。

尾崎明夫

.....

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://dev.opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-53/> (2025/08/07)